



四万十町  
町内「ぶら〜り」散策

# 中神ノ川

なかごうのかわ



鎮守の森に囲まれた「河内神社」

国道381号を十和・大正方面から窪川の街中に向かって走る。右手に若井沈下橋、若井大橋を見ながら、見通しの良い直線に入る。この直線を過ぎる辺りが神ノ川の谷筋への入り口である。奥に向かつて順に、口神ノ川↓中神ノ川↓奥神ノ川と集落が続く。国道から1.5kmほど入ったところからが中神ノ川となる。

地区の氏神様は河内神社。鎮守の森に囲まれていて、集落の中で「ここは特別な場所」という雰囲気を感じ出している。文献によれば、この神社には、日本神話に登場する、雨乞いの神として、また、台風などを鎮める風の神ともされる天津彦根命を祀っているということである。地区では夏と秋の2回の神祭を行う。

また、現在の集会所には、江戸時代初期まで吉祥庵という、いわばお寺があったらしい。この集会所で、毎年8月6日に御先祖供養として「施餓鬼」が行われるそうで、この場所がお寺であったことを裏付けている。

さて、中神ノ川には56世帯126人が暮らしている。他の地区同様、高齢化は著しいものがあ

るが、車で10分もあれば窪川の街中まで行けるといふ便利さもあってか、若い世代も比較的多いと聞く。ただ、2012年春に、口神ノ川小学校が休校、窪川小学校に統合したことで、ただでさえ少なくなった子どもたちもバス通学となり、自転車で通学する姿さえ見ることができなくなったことは、寂しい限りだと地区の方が残念そうに語ってくれた。

どの地区もそうであるが、この中神ノ川も以前は子どもたちの声があふれていたという。地区の中ほどに小さな記念碑があるのだが、60歳を少し過ぎた地区の方のお話によると、子どもの頃は何をやるにもここが皆の待ち合わせ場所であったらしい。下校時に「〇時に記念碑！」と確認し合うのが日課だったそうで、ここで待ち合わせた後の当時の子どもたちは、山へ、川へと縦横無尽に駆け回った。目を閉じてその姿を想像してみるが、思い浮かぶ映像はセピア色である。



昔の子どもたちの「待ち合わせ場所」

町のうごき	(11月30日) 人口		前月比		出生		死亡		転入		転出		適正值(mg/l)		12月9日							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	リン酸	硝酸	アンモニウム	アニオン活性剤	化学的酸素消費量					
	8,863	9,997	-16	-4	3	2	18	12	14	15	15	9	≤ 5.0	≤ 0.5	≤ 5.0	≤ 1.0	≤ 10.0	測定値以下	0.563	測定値以下	0.350	測定値以下
	18,860	18,860	-20	-20	5	5	30	30	29	24	24	24										
	8,766	8,766	-6	-6			(11月中の届出)															

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)

調査：大正(吾川) 資料：四万十高校自然環境部